

研究主題

人とかかわり自然とふれあいながら「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童の育成
～「書く活動」に重点を置いた生活科・総合的な学習の時間の指導を通して～

1 主題設定の理由

- (1) 本校の児童の現状から（略）
- (2) ESD 推進の意義から（略）
- (3) 「生きる力」と学校教育目標から（略）
- (4) 学習指導要領の捉えから（略）
- (5) 昨年までの研究の成果と課題から
 - ・情報を分析・評価し、論述する活動における指導に課題
 - ・互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる活動における指導に課題
 - ・課題意識のもたせ方に課題
 - ・「書くこと」の基礎的・基本的な知識や技能を活用させる指導に課題
- (6) 本年度の改善の方向から

そこで今年度は、児童を取り巻く現状や昨年度までの研究課題を踏まえ、以下の視点に立って生活科・総合を中心とする環境学習の指導を見直すことが必要だと考える。

 - ① 目指す児童像を明確にすること
 - ② ふるさと気仙沼への思いや課題意識をもって探究できるよう、人とかかわったり、自然とふれあったりする体験活動の充実を図った単元構想を工夫すること
 - ③ 「思考力・判断力・表現力」を育むために、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究過程に「書く活動」を意図的・計画的に位置付けること
 - ④ 図書やインターネットを中心とした探究から、人に聞いたり、観察・実験したりなど、人や自然と関わりながら学ぶ具体的な活動や体験の充実を図ること
 - ⑤ 体験したことや情報収集した後の、情報の整理・分析における指導においては、比較したり、関連付けたりなどの方法を具体的に指導すること
 - ⑥ 国語科で身に付けた「書くこと」の基礎的・基本的な知識や技能が、生活科や総合で活用できるよう、関連を図った指導を工夫すること
 - ⑦ 教科の問題解決的な学習と総合の探究過程のプロセスにおける「書く活動」の関連を踏まえ、学習指導を工夫すること
 - ⑧ 思考力・表現力を伸ばすために、どのようなノートづくりが効果的か、各教科の問題解決的な学習や総合の探究過程のプロセスに応じたノート指導を工夫すること
 - ⑨ 学習を振り返り、成果を確認し新たな目標を見いだせるようノート等の記録の累積を生かした振り返りの活動を工夫すること

以上のことから、本年度は、研究主題を「人とかかわり自然とふれあいながら「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童の育成」とし、昨年度の課題であった「書く活動」に重点を置いた指導を通して「思考力・判断力・表現力」の育成を図るという本校の生活科・総合の指導をさらに追究し、教育目標の具現化を図りたいと考え、本主題を設定した。

2 研究目標

持続可能な社会の担い手の育成を目指し、地域の人とかかわり自然とふれあいながら「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童を育むための指導の在り方はどうあるべきか、「書く活動」に重点を置いた生活科、総合的な学習の時間の指導を通して明らかにする。

3 研究仮説

生活科・総合的な学習の時間において、地域の人とかかわらせたり自然とふれ合わせたりしながら、以下の手立てを講じて「書く活動」に重点を置いた生活科、総合的な学習の時間の指導を工夫すれば、「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童を育むことができるであろう。

【手立て】

- 手立て1 ふるさと気仙沼への思いや課題意識をもって探究できる活動の充実
・人とかかわり、自然とのふれあいを重視した体験活動を充実させる。
- 手立て2 体験したことや集めた情報を整理・分析し、思いや考えを深めて書く指導の工夫
・体験したことや収集した情報を整理・分析し、熟考して自分の思いや考えを書くことができるよう指導を工夫する。
- 手立て3 教科との関連を図った指導の工夫
- 国語科の「書くこと」との基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、生活科、総合の指導への活用を図る。
 - 教科の問題解決的な学習のプロセスに「書く活動」を位置付け、生活科、総合の指導への活用を図る。
- 【社会科】「追究」の段階
- 資料から必要な情報を読み取って記録したり、比較・関連付け・統合しながら再構成したりしながら、考えたことを自分の言葉でまとめる。
- 【算数科】「自力解決」の段階
- 考えたことを言葉や数、式、図、グラフ等を使って筋道立てて表現する。
- 【理科】「予想・仮説」「観察・実験の記録」「考察」の段階
- 自分の経験をふり返り、根拠を加えた予想を書く。
 - 実験・観察の記録では、何をどのようにして調べたかを順序立てて過去形で書く。
 - 結果を示し、予想や仮説とを見比べて、分かったことや気付いたこと、新たな疑問などを検討して書く。
- 手立て4 伝える喜びや充実感を味わわせる「まとめ・発信」の工夫
・「新聞」や「フォトブック」「パンフレット」「リーフレット」「観察日記」など、伝える相手や目的に応じて表現する方法を学び、発信することを通して、伝える喜びや充実感を味わわせる。
- 手立て5 思考力・表現力を伸ばすためノート指導の工夫
・「課題（めあて）を書く」「予想して（仮説を）書く」「（必要な情報を）集めて書く」「（情報を整理・分析し）考えて書く」「（練り合って）深めて書く」「（振り返って）見つめて書く」「（さらに探究し）広げて書く」など、教科の問題解決的な学習や総合の探究過程のプロセスに沿ったノートづくりの指導を工夫する。

4 研究の内容

- (1) 「考えを深め、表現できる児童」を育む生活科・総合的な学習の時間の単元構想及び探究的な学習の過程の改善を図る
- (2) 教科における言語活動「書く活動」の特質を分析し、教科と生活科や総合的な学習の時間と関連付けた指導の在り方を探る
 - ① 国語科は、「書くこと」の内容を学年別に整理し、国語科で培った能力を他教科や生活科、総合的な学習の時間に活用できる指導方法を探る。
 - ② 国語以外の教科では、社会科、算数科、理科における「書く活動」との関連を重視する。
- (3) 体験したことや情報収集した後の「比較」「関連付け」「統合」などの情報の整理・分析における指導方法を追究する。
- (4) 思考力・表現力を伸ばすためのノート指導を追究する
「課題（めあて）を書く」「予想して（仮説を）書く」「（必要な情報を）集めて書く」「（情報を整理・分析し）考えて書く」「（練り合って）深めて書く」「（振り返って）見つめて書く」「（さらに探究し）広げて書く」など、教科の問題解決的な学習や総合の探究過程のプロセスに沿ったノートづくりの指導方法を工夫し、思考力・表現力を伸ばすためのノート指導を追究する。
- (5) 書くことで伝える喜びや充実感を味わわせる「まとめ・表現」「発信」の在り方を探る
「観察日記」や「新聞」「フォトブック」など、目的に応じた表現の方法を体験させ、自分の思いや考えを書くことで伝える喜びや充実感を味わわせる表現の在り方を探る。
- (6) 「書くこと」への意識を高めることと言語環境との関連を探る
友達ノートや学習のまとめ等の作品を紹介するコーナーなどを設置し、「書くこと」への意識を高めることと言語環境との関連を探る。
- (7) 学習を振り返り、成果を確認し新たな目標を見つけられるようノート等の記録の累積を生かした振り返りの活動の在り方を探る

5 研究の方法

- (1) 「環境への意識調査」「総合的な学習の時間に関する意識調査」「全国学力・学習状況調査」「CRT」の結果を分析し、児童の資質・能力の実態を総合的に捉え、「目指す児童像」や「仮説の手立て」を設定する。
- (2) 「学習指導要領」及び「国立教育政策研究所」「ESDに関する資料」等の文献を研究し、本校のESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を設定する。
- (3) 国語科、社会科、理科、算数科における「書く活動」に重点を置いた授業実践を通して、生活科、総合的な学習の時間と関連付けた指導の有効性を探る。
- (4) 「書く活動」に重点を置いた生活科、総合的な学習の時間における授業研究を通して、研究仮説の検証を行う。
- (5) 授業実践を通して、解決すべき明確な課題や発問、指示の仕方を探る。
- (6) 「環境への関心」「行動の変化」「生活科や総合的な学習の時間に関する意識」の意識調査や「国語・算数のCRT」の結果、ノートやまとめの作品を分析し児童の変容を考察する。

7 研究の構想

(1) 研究主題のとらえについて

- ① 「人とかがわり自然とふれあいながら「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童」

東日本大震災によって被災したふるさとの復興に向けて努力している人々の姿や森・川・海の自然環境について、友達と協力し合いながら探究し、「ふるさと気仙沼」の今やこれからについて熟考し、自分の思いや考えを理由や根拠を明らかにしながら、筋道立て分かりやすく表現し、相手や目的に応じて発信できる児童と押さえた。

② 「書く活動」に重点を置く

「書く活動」は、思考力、判断力、表現力を高めるための手段である。以下の点に留意し、意図的、計画的に「書く活動」に重点を置いた指導を図ることとした。

ア 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究過程に「書く活動」を意図的・計画的に位置付け指導の重点を図るようにする。

イ 教科で身に付けた「書くこと」の能力が、生活科や総合で活用できるよう、国語科で培った「書くこと」の能力を基本に、教科においては、教科の特質に応じて「書く活動」を学習プロセスに位置づけて指導するようにする。

ウ ノート指導と関連付け、思いや考えを書く活動の日常化を図るようにする。

エ 書いて伝える喜びや充実感を味わわせるようにする。

(2) 「考えを深め、表現できる児童」を育む生活科・総合的な学習の時間の単元構想について

① 改善の視点

生活科・総合では体験と表現の一体化が大切であると言われてる。このことは、本校の指導においても重視してきた。今年度は、さらに体験したことの中から必要な情報を取り出し、熟考・評価し、自分の言葉で思いや考えを表現し、発信できるよう、単元構想や探究過程の改善を図る。改善の視点として以下の点を重視する。

ア 大学・専門機関を含めた地域人材と連携した活動に重点を置く。

イ 環境を考える上で、地域人材や地域素材を生かした活動に重点を置く。

ウ 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究過程に「書く活動」を意図的・計画的に位置付けた単元の構想及び探究過程における指導に重点を置く。

② 探究過程に「書く活動」を位置付ける際の視点

「書く活動」を意図的・計画的に探究過程に位置付けた指導の工夫が大切であると考えている。よって、各探究過程における言語活動の例を、以下の表のように整理し活用を図る。なお、言語活動の例は、資料「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（文部科学省 H22.11）」を参考にした。【各探究過程と言語活動の例】（**太字**は「書く活動」と関連する活動）

探究過程	言語活動の例	ページ
<p>【課題設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ段階 ・課題解決に向けて見通しをもつ段階 	<p>事例① 比べて考えるような体験活動を位置付け、「<u>予想を書かせる</u>」「<u>疑問点を書かせる</u>」などして、意見を交流させ、課題への意識を高める。</p> <p>事例② 複数の資料（写真、映像、グラフなど）を比較させ、「<u>疑問点や気付いた点を書かせる</u>」などして、課題を共有化を図る。</p> <p>事例③ カードを活用した KJ 法的な手法を用いて、気付きや疑問点を類型化し、課題を見出す。</p> <p>事例④ ウェビングを活用し、イメージを広げ、課題を見出す。</p> <p>事例⑤ グループ毎にワークショップや編集会議を行わせ、課題解決に向けた見通しをもつ。</p>	<p>2 0</p> <p>2 1</p> <p>2 2</p> <p>2 3</p>
<p>【情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を取り出したり収集したりする段階 	<p>事例① 質問の仕方やアンケートの取り方を知り、調査を行う。</p> <p>事例② インタビューの手順を知り、インタビュー前の下調べや質問事項を考え、情報を収集する。</p> <p>事例③ 目的に合った書籍等の検索方法を身に付け、効率よく情報を収集する。</p> <p>事例④ インターネットでの検索方法を身に付け、効率よく情報を収集する。</p> <p>事例⑤ ファクシミリや手紙、電話、電子メールを活用し、目的に応じて情報を収集する。</p> <p>事例⑥ 実験・観察を通して、客観的なデータを集め、分析や考察に活用する。</p> <p>事例⑦ 書く活動を重視し、記録を累積する。</p>	<p>2 4</p> <p>2 5</p> <p>2 6</p> <p>2 6</p> <p>27 ~ 28</p>
<p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報を、整理したり分析したりして思考する段階 	<p>事例① 集めた情報をカードに取り出し、分類することで、情報を焦点化して整理する。</p> <p>事例② 調査したことをグラフや表にして、情報を目に見える形にして取り出し、事象の特徴を客観的にとらえ、考え方の根拠にする。</p> <p>事例③ 調べた結果をマップに整理し、他のエリアと比較したり、エリアの特徴と調査結果を関連付けて考える。</p> <p>事例④ 絵や図などを使って情報を整理し、新たな発見を促す。</p> <p>事例⑤ メリット・デメリットの視点で吟味する。</p> <p>事例⑥ ホワイトボードなどを使って話し合いを可視化しながら考えを確認する。</p> <p>事例⑦ ワークショップで互いの考えを明確にしながら、グループの考えを明確にする。</p>	<p>3 1</p> <p>3 2</p> <p>3 3</p> <p>3 4</p> <p>3 5</p> <p>3 6</p>
<p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する段階 	<p>事例① 振り返りカードなどで、自分の考えを明確にする。</p> <p>事例② グループ発表会など、保護者や地域住民などによる外部評価の場を設定し、気付きを深めたり、自信をもたせたりする。</p> <p>事例③ 自己評価カードを活用し、自己の変容に気付く。</p> <p>事例④ プレゼンテーションでまとめ、表現する。</p> <p>事例⑤ 新聞や報告書、レポート等でまとめ・表現する。</p> <p>事例⑥ パンフレットやポスターでまとめ・表現する。</p> <p>事例⑦ パネルディスカッションでまとめ・表現する。</p> <p>事例⑧ 国語科で学習した成果をまとめ・表現に活用する。</p>	<p>3 8</p> <p>3 9</p> <p>4 0</p> <p>4 0</p> <p>41 ~ 42</p> <p>4 3</p> <p>4 4</p> <p>4 5</p>

③ 学年の構想の方向

【1・2年】(人・自然)	【3, 4年】(水辺環境)	【5, 6年】(海の環境, エネルギー)
<ul style="list-style-type: none"> ●1年「おもせの しき」 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の野菜農家の方と一緒に野菜作りをしたり, 身近な自然の四季とふれあったり, 季節毎の行事を体験したりしながら, 生活と自然のつながりに気付かせる。 ●2年「やさいをそだてよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・「復興豆腐」を通して, まちの復興に向けて努力している方と交流しながら, 「豆の栽培」「収穫」「豆腐づくり」の体験を通して, 自然環境や人とのつながりに気付かせ, 考えたことを伝え合い交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3年「みらいにのこそう水辺のいきものたち」(70時間) <ul style="list-style-type: none"> ・面瀬川などの水辺のいきもの調査を通して, 水辺環境を守るためにできることを考え, 発信する。 ●4年「未来にのこそう水辺のかんきょう」(70時間) <ul style="list-style-type: none"> ・面瀬川の水質と生活排水の調査を充実させ, 生活と面瀬川の環境, さらに海の環境のつながりを探究することを通して, 水辺環境を守るためにできることを考え, 発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●5年「水産都市気仙沼, 海と共に生きる」(70時間) <ul style="list-style-type: none"> ・震災後の気仙沼市の水産業の現状から, 「水産都市気仙沼」の課題や, 海と共に生きる人々の思いや願いを探り, 「水産都市気仙沼」の復興に向けた自分たちの思いや考えを発信する。 ●6年「母なる地球, 今, 私たちにできること」(70時間) <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の問題とエネルギーを追究し, 地産地消エネルギーや再生エネルギーを利用した気仙沼市のエネルギーの在り方について考え, 未来のエネルギー構想を提案し, 発信する。

(3) 研究で目指す児童の姿

研究主題や研究目標から, 研究で目指す各学年の児童の姿を以下のように設定する。

生活科	総合的な学習の時間	
	低学年	中学年
<p>地域の方々に進んでかかわりあったり, 身近な植物やいきものの観察やお世話をしたりしながら, 地域を支えている人々の存在や身近な自然のよさに気づき, 体験したことや考えたことを絵や文などを使って, すなおにできるだけ詳しく文章に書いたりことばで発表したりすることができる。</p>	<p>面瀬川のいきものや水質などの水辺の環境について, 進んで調査したり, 地域の方々を取材したりしながら地域の環境を見つめ, 集めた情報を比べたり, 分類したりして整理・分析し, 自然と共に生きる気仙沼のよさについて考えたことを効果的に資料を使い, 新聞やポスターなどの作品に書き表し, 発信することができる。</p>	<p>海と共に生きる人々や温暖化を防ぎ自然と共に生きるためのエネルギーの活用について, 進んで地域の方々を取材したり, 自然エネルギーについて調べたりしながら情報を集め, 整理, 分析した情報から, ふるさと気仙沼の今やこれからのあるべき姿についての思いや考えをもち, 資料や根拠を示しながら, 新聞や報告書, レポートなどの作品に適切に書き表し, 発信することができる。</p>

(4) 国語科における「書くこと」の内容と各学年での指導の重点のおさえ

本研究では, 「表現できる児童」を, 「自分の思いや考えを理由や根拠を明らかにしながら, 筋道立てて分かりやすく表現しできる児童」と押さえている。今年度は, 「書く活動」に重点を置き指導するが, 言語活動を通して思考力・表現力を高める視点から, 国語科の「話すこと・聞くこと」においても関連付けて指導する。

よって, 「国語科における重点指導事項」を新学習指導要領の指導事項に基づいて表1のように系統立てて整理した。さらに, 「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の指導事項を焦点化し『「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の指導の重点』(表2)を一覧表に整理し, 各教科等を通して「書く活動」に重点を置き, 意図的に指導できるようにすることとした。

表1 国語科における重点指導事項（新学習指導要領の指導事項から）

	低学年	中学年	高学年
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 相手に応じて、話す事柄を順序立てて話すこと はっきりした発音で話すこと 大事なことを落とさないように、興味をもって聞くこと 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な事柄について調べ、要点をメモすること 理由や事例などを挙げながら筋道立てて話すこと 言葉の強弱や間の取り方などに注意して話すこと 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすること 互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合うこと 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した知識や情報を関係付け話すこと 目的や意図に応じて事柄が伝わるように話の構成を工夫して話すこと 話し手の意図をつかみながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめ話すこと 意図をはきりさせながら、計画的に話し合うこと
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 書こうとする題材に必要な事柄を集めること（取材） 順序に沿った簡単な構成を考えること（構成） つながりのある文や文章を書くこと（記述） 文章を読み返し、間違いを直すこと（推敲） 互いの文章を読み合い、感想を伝え合うこと（交流） 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること（取材） 段落の関係に注意して文章を構成すること（構成） 中心をはっきりさせ、理由や事例を挙げて書くこと（記述） 敬体と常体に気を付けて書くこと（記述） よりよい表現に書き直すこと（推敲） 書いたものを発表し合い、意見を述べ合うこと（交流） 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること（取材） 文章全体の構成の効果を考えること（構成） 事実と感想、意見などを区別して書くこと（記述） 引用したり、図やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く力（記述） 表現の効果などについて工夫する力（推敲） 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと（交流）

表2 「書くこと」の指導の重点

	低学年	中学年	高学年
話す	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを詳しく話す。 ①「まず」「次に」「最後に」を使って話す。 ②理由を付けて話す。 「～は～だからです。」 ○相手に聞こえるように話す。 ③最後まではっきり話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを整理して話す。 ①「まず」「次に」「最後に」を使って話す。 ②「結論」「理由」の順で話す。 ③「しかし」「だから」「なぜなら」のつながりの言葉を使って話す。 ○相手に分かるように話す。 ④理由や図・表、具体物を示しなら順序よく話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えの根拠を明確にして話す。 ①根拠となる事実を基に話す。 ②「このように」「つまり」などのまとめる言葉を使って話す。 ○目的や意図に応じて事柄が伝わるように話す。 ③資料を活用したり、例を挙げたりして話す。 ④相手の考えを引用して話す。
聞く	<ul style="list-style-type: none"> ○最後まで話を聞く。 ①話す人をよく見て聞く ②賛成意見「同じです」、違う意見「違う考えです」と、はっきり言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えと比べながら話を聞く。 ①「同じです」「付け足しです」「質問です」など相手に反応しながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手が伝えようとしている。 ①相手の意図をつかみながら聞く。 ②大事な言葉や要点をメモしながら聞く。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを詳しく書く ①「まず」「次に」「最後に」など、順序を表すつながり言葉を使って書く。 ②誰が何をしたのかがはっきり分かるように書く。 <p>※200字程度の文章を書く ※ノート感想60程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを整理して書く。 ①「しかし」「だから」「なぜなら」など、接続後を使って筋道立てて書く。 ②中心をはっきりさせ、理由や事例を挙げて書く。 ③まとまりを意識して段落を付けて書く。 <p>※400字程度の文章を書く ※ノート感想80字程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えの根拠を明確にして書く。 ①「このように」「つまり」など、まとめる言葉を使って書く。 ②事実と感想、意見などを区別して書く。 <p>※400字程度の文章を書く ※ノート感想100字程度</p>

(5) 学習指導要領から捉える教科（社会科，算数科，理科）における「表現」と生活科，総合的な学習の時間における指導との関連

① 社会科

学年	学習指導要領から捉える「表現」
3, 4年	<p>○目標（3） 地域における社会的事象を観察，調査するとともに，地図や各種の<u>具体的資料を効果的に活用し，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力，調べたことや考えたことを表現する力</u>を育てるようにする。</p> <p>「調べたことや考えたことを表現する力」 ・（略）「…調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを<u>相手にも分かるように表現</u>する…。」</p>
5年	<p>○目標（3） 社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，統計などの各種の<u>基礎的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味について考える力，調べたことや考えたことを表現する力</u>を育てるようにする。</p> <p>「調べたことや考えたことを表現する力」 ・（略）「…調べたことや社会的事象の意味について考えたことを，<u>根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現</u>し説明する…。」</p>
6年	<p>○目標（3） 社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，年表などの各種の<u>基礎的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味をより広い視野から考える力，調べたことや考えたことを表現する力</u>を育てるようにする。</p> <p>「調べたことや考えたことを表現する力」 ・（略）「…調べたことや社会的事象の意味について広い視野から考えたことを，<u>根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現</u>し説明する…。」</p>

総合的な学習の時間の指導との関連

【探究過程における【まとめ・表現】との関連】

- ・収集した資料を活用して，考えたことや調べたことについて説明文や解説文を書き分かりやすく表現する活動と関連付ける。
- ・調べたことや考えたことを，図や表に整理し，根拠や解釈を示しながら分かりやすく新聞や報告書等でまとめる活動と関連付ける。

② 算数科

学年	学習指導要領から捉える「表現」
1年	<p>○目標（4） <u>具体物を用いた活動などを通して，数量やその関係を言葉，数，式，図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。</u></p> <p>【算数的活動】 イ 計算の意味や計算の仕方を，具体物を用いたり，<u>言葉，数，式，図を用いたりして表す活動</u></p>
2年	<p>○目標（1学年に同じ）</p> <p>【算数的活動】 オ 加法と減法の相互関係を<u>図や式に表し，説明する活動</u></p>

3 年	<p>○目標（４） 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。</p> <p>【算数的活動】 ア 整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、<u>言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動</u> オ 日時や場所などの観点から<u>資料を分類整理し、表を用いて表す活動</u></p>
4 年	<p>○目標（４） 数量やその関係を<u>言葉、数、式、図、表、グラフなどに表</u>したり調べたりすることができるようにする。</p> <p>【算数的活動】 イ 長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、<u>具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動</u> オ 身の回りから、伴って変わる二つの数量を見付け、数量の関係を<u>表やグラフを用いて表し、調べる活動</u></p>
5 年	<p>○目標（４） <u>数量の関係を考察</u>するとともに、<u>百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることができる</u>ようにする。</p> <p>【算数的活動】 ア 小数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動 イ 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、<u>言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動</u> エ 三角形の三つの角の大きさの和が 180°になることを<u>帰納的に考え、説明する活動</u>。四角形の四つの角の大きさの和が 360°になることを<u>演繹的に考え、説明する活動</u> オ 目的に応じて<u>表やグラフを選び、活用する活動</u></p>
6 年	<p>○目標（４） 比や比例について理解し、数量の関係の考察に<u>関数の考え</u>を用いることができるようにするとともに、<u>文字を用いて式に表す</u>ことができるようにする。また、資料の散らばりを調べ<u>統計的に考察する</u>ことができるようにする。</p> <p>【算数的活動】 ア 分数についての計算の意味や計算の仕方を、<u>言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動</u> エ 身の回りから、比例の関係にある二つの数量を見付けたり、比例の関係を<u>用いて問題を解決したりする活動</u></p>

総合的な学習の時間における「書く活動」との関連

【探究過程における【整理・分析】【まとめ】との関連】

・算数科での説明する活動は、「事実の説明」「方法の説明」「理由の説明」がある。また、国語との関連では、「まず」「次に」や「例えば」「なぜなら」「よって」など、順序や例示、結論を表すのに必要な言葉を必要とする。このことから、算数科の言語活動は、言葉による表現に加え、式、図、表、グラフなどを用いて表現することに特質がある。総合では、算数科で培ったこれら能力を、「整理・分析」「まとめ」の際に活用できるよう関連付ける。

③ 理科

学年	学習指導要領から捉える「表現」
3～6年	<p>【指導計画の作成と内容の取扱いから】</p> <p>(2) <u>観察、実験の結果を整理し考察する</u>学習活動や、<u>科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする</u>などの学習活動が充実するよう配慮すること</p>
3年	<p>○目標解説から</p> <p>「第3学年の目標は、自然の事物・現象を差異点や共通点という視点から<u>比較しながら調べ</u>、問題を見だし、見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、物の性質やその働きについての見方や考え方、自然の事物・現象に見られる共通性や相互のかかわり、関係などについての見方や考え方を養うことである。」</p>
4年	<p>○目標解説から</p> <p>「第4学年の目標は、自然の事物・現象の変化に着目し、変化とそれにかかわる要因とを<u>関係付けながら調べ</u>、問題を見だし、見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、物の性質やその働きについての見方や考え方、自然の事物・現象に見られる規則性や関係についての見方や考え方を養うことである。」</p>
5年	<p>○目標解説から</p> <p>「第5学年の目標は、自然の事物・現象をそれらにかかわる<u>条件に目を向けたり</u>、量的変化や時間的変化に着目したりして調べ、問題を見だし、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、自然の事物・現象の規則性についての見方や考え方、生命の連続性についての見方や考え方を養うことである。」</p>
6年	<p>○目標解説から</p> <p>「第6学年の目標は、自然の事物・現象の変化や働きをその要因や規則性、関係を<u>推論しながら調べ</u>、問題を見だし、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、物の性質や規則性についての見方や考え方、自然の事物・現象の変化や相互関係についての見方や考え方を養うことである。」</p>

総合的な学習の時間における「書く活動」との関連

【探究過程における【整理・分析】【まとめ】との関連】

・理科では「観察、実験」の前後の活動における言語活動が、総合の「書く活動」に大きく関わる。つまり、「予想や仮説を立てる段階」「観察や実験の方法や結果を整理する段階」「結果から考察する段階」が、思考力、表現力を育む上で大切であると考えられる。「予想や仮説の段階」では、問題に対して自分がどう考えたのか、生活経験や既習事項などの根拠を基に、予想や仮説を立てさせたい。「観察や実験の方法や結果を整理する段階」では、観察や実験の手順と結果を事実即して正確に記録し、考察の際に生かすようにしたい。「考察」の段階では、結果を表やグラフに整理し、解釈し、予想や仮説と比較、関連付けながら考察したことを、筋道立てて書かせたい。総合では、理科科で培ったこれら能力を、「整理・分析」「まとめ」の際に活用できるよう関連付ける。

④ 生活科

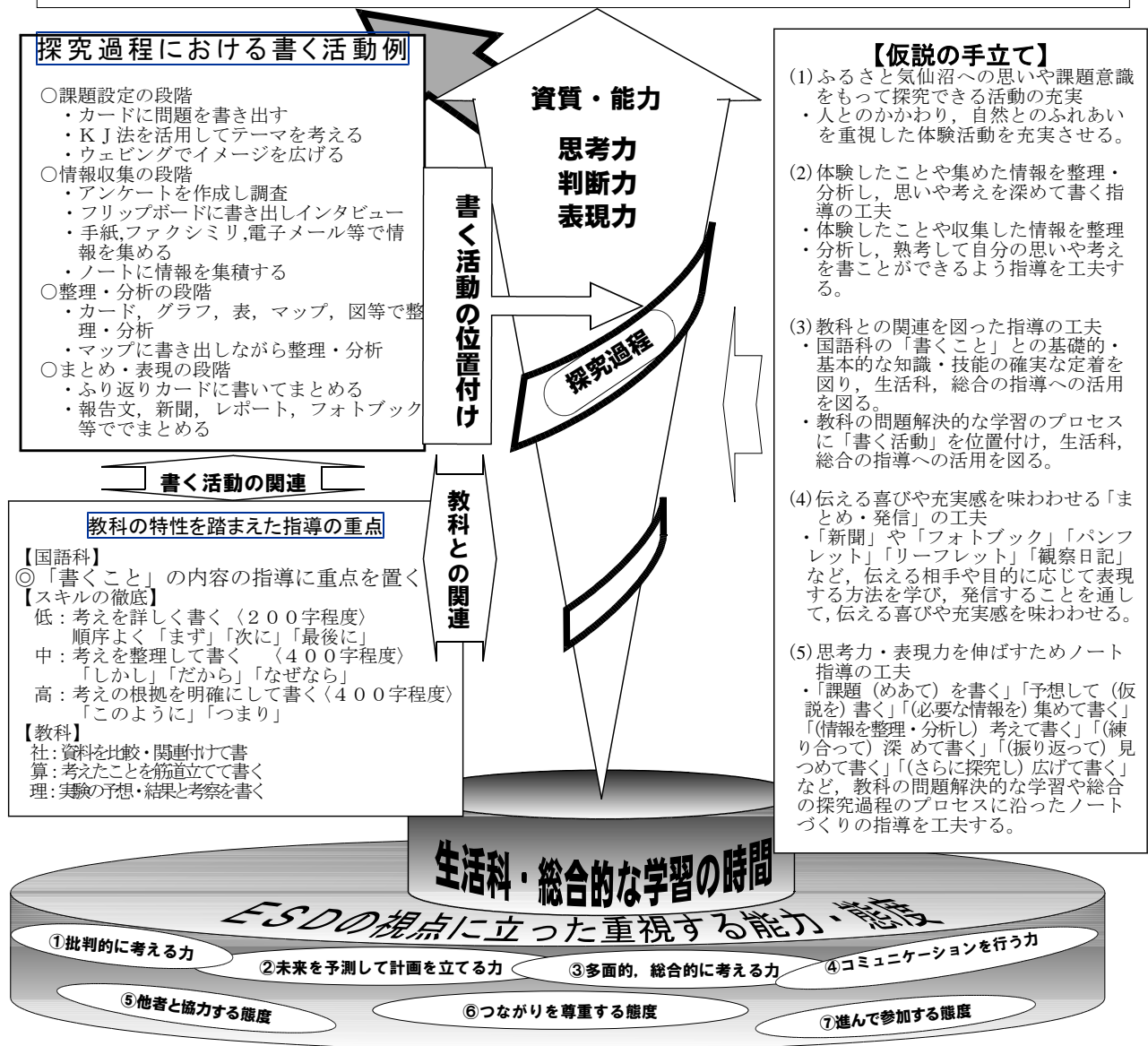
学習指導要領は、1, 2年の生活科の目標(4)において、「身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。」と示している。

このことから、生活科においては、低学年の特性を踏まえ、言葉だけでなく、絵や動作、劇化などの多様な方法による表現が大切であると考えます。よって、まず豊かな体験活動を重視し、豊かな言葉が生み出されるようにし、絵や動作、劇などでの表現活動を体験させながら、国語科の指導と関連付けながら、自分の思いや考えを文章で書き表すことができるよう、意図的計画的に指導できるようにする。

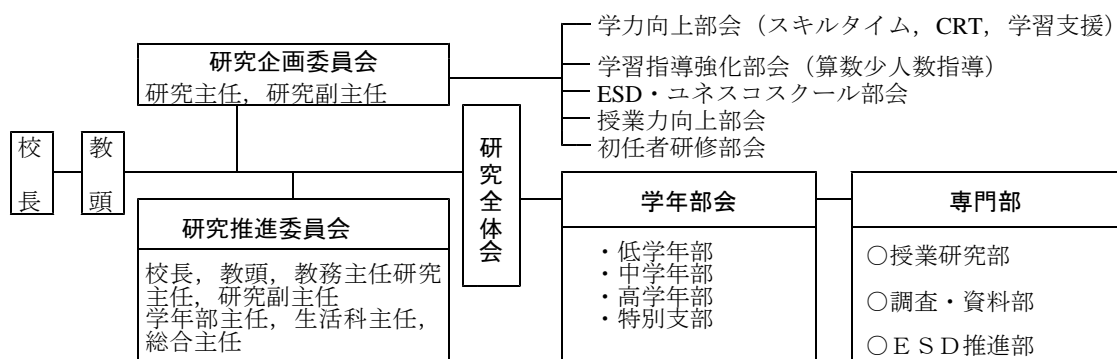
(6) 研究のイメージ図

教育目標：「将来を力強く生き抜き、新しい社会と地域を創りゆくために、かしく、たくましく、思いやりのある児童を育む」

研究主題：「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童



(7) 研究組織



【研究組織及び活動内容】

研究組織	活動内容
研究企画委員会	○校内研修計画からまとめまで、年間を通しての活動の原案を作成し、研究推進委員会に提案する。 (主な活動)・年間研究計画(原案)や月別研究計画(原案)の検討 ・研修主題設定に関する原案の検討 ・研究及び学力に関わる児童の実態把握・分析・対策 ・研究推進のための研究会・研修会のもち方(全体会、部会等)の計画(原案)の検討 ・研修に関する講師のリストアップと招聘計画 ・研究・研修に関する情報や資料の収集と提供 ・評価と今後の課題のまとめ計画(原案)検討
研究推進委員会	・研究企画委員会から提案された内容を検討する。 ・全体会へ向けての内容の吟味 など
全体会	・研究部から出される案を検討する。 ・共通理解を図る。 ・授業の事後検討
学年部	○研究主題, 目標, 仮説, 手立てを受けて授業を実践する。 ・指導案の作成 ・事前授業 ・事後検討会 ・学年部の記録の累積 ・学年部成果と課題の検討 ・学年部まとめ
専門部	○授業研究部 ・指導案形式の検討, 授業記録, 事後検討会・模擬授業のお世話 ○調査・資料部 ・実態調査資料作成, 分析 ・各学年の写真記録累積・管理 ○ESD推進部 ・各学年の実践の校内掲示(職員室前) ・ユネスコスクール等のESDアンケート報告 ・校外へのPR活動(ホームページ作成など)
学力向上に関する部会	○学力向上に関する計画や内容の検討 ・授業改善研修 ・CRT実施に向けての計画・実施 ・家庭学習との連携検討 など

(8) 研修計画

① 授業研究計画

回	授業予定の月	研究主任の希望	授業学年
1回目	5月	岩槻（3年で）	○3学年合同「総合的な学習の時間」 ○授業者：岩槻
2回目	6月19日 ※指導主事訪問	5年	○5学年合同「総合的な学習の時間」 ○授業者：熊谷，市村
3回目	9月	2年	○2学年合同「生活科」 ○授業者：内海，小松
4回目	9月	4年	○4学年合同「総合的な学習の時間」 ○授業者：菅野，豊田
5回目	10月2日	特別支援部	○「さわやか」「おおぞら」合同 ※検討会では，外部講師を招聘して研修を兼ねる。
6回目	10月25日 ※ESD/RCE円卓会議	2年（算数） 3年（総合） 6年（総合）	○2年1組「算数科」校内研究との関連で授業 ○3学年合同「総合的な学習の時間」 授業者：大内，小野寺弘恵 ○6学年合同「総合的な学習の時間」 授業者：鈴木，宮崎
7回目	11月～12月	1年	○1学年合同「生活科」 ○授業者：小野寺美和，高橋

② 年間予定

月	回	月/日	会	校内研究関係予定	研修関係・その他予定
4		4/3	推進委員会	○25年度校内研修計画（案）検討 ・研究主題，目標，内容，組織等の検討	【研究に関する児童の実態調査①】 ・4月中に実施する。
	1	4/10	全体会 学年	○25年度校内研修計画検討・共通理解 ・ESDについて ・研究主題，目標，目指す児童像，内容，組織等について	
	2	4/17	全体会		○学力向上研修① 「全国学力・状況調査に向けて」
5	3	5/1	全体会	○25年度校内研究主題・仮説・手立てについての検討	○本教研講演会・研究部会（5/2） ○市教研代議員会・研究部会（5/7）
	4	5/8	全体会	○25年度生活科・総合的な学習の時間の構想の確認	○「新聞づくり」研修（河北新報社） 面瀬小会場へ実施
	5	5/22	個人		○学校訪問指導案作成 （1次原稿提出は5/27）

	6	6/3	全 体 会	○第1回授業研究会（3学年） 授業者：岩槻 事後検討会 ○学校訪問に向けて	
6	7	6/12	学 年	○学校訪問事前模擬授業	○学校訪問指導案清書提出（6/5） ○学校訪問指導案事務所提出（6/2）
	8	6/19	学年部会	○学校訪問 ○第2回授業研究兼ねる（5学年） 授業者：熊谷，市村	
	9	6/26	全 体 会	○5学年授業検討会 授業者：熊谷，市村	
	10	7/10	個 人	○1学期評価 ○教育課程伝講会等	
7	11	7/19	全 体 会		○実技研修「心肺蘇生，AED」 ○市教研一斉研修（7/5）
8	12	8/28	全 体 会	○ESD/RCE円卓会議授業に向けて ○教育課程伝講会	○市教研教育講演会（8/1） ○教育課程地区研究協議会（8/6） ○本教研一斉研修（8/8）
9	13	9/11	全 体 会	○第3回授業研究（2学年） 授業者：内海，小松 ○検討会	○防災研修会
	14	9/25	全 体 会	○第4回授業研究事前（4学年） 授業者：菅野，豊田 ○検討会	
10	15	10/2	全 体 会	○特別支援授業研究・事後検討会	
	16	10/9	全 体 会	○ESD 模擬授業，指導案検討会 3 授業提供 ・2年1組算数（小松） ・第5回授業研究対象（3学年） 授業者：大内，小野寺弘恵 ・第6回授業研究対象（6学年） 授業者：鈴木，宮崎	
	17	10/25	全 体 会	○ESD/RCE円卓会議授業研究（午前）	○ESD/RCE円卓会議（午後）

				3 授業提供 ・ 2 年 1 組算数 (小松) ・ 第 3 回授業研究対象 (学年) ・ 第 4 回授業研究対象 (学年)	「E S D 研修会」
	18	10/30	全 体 会		○算数科授業づくり研修
11	19	11/7	全 体 会	○第 7 回授業研究会 (1 学年) 授業者：小野寺美和, 高橋 検討会	
	20	11/20	全 体 会		○算数科授業づくり研修
	21	11/27	全 体 会	○校内研究の成果と課題	
12	22	12/4	全 体 会	○研究のまとめ ・ アンケート結果等の分析, 考察 ・ 学年部研究のまとめ執筆	
	23	12/11	全 体 会		○書写実技研修 【校内研究職員評価アンケート配布】 【研究に関する児童の実態調査②】
1	24	1/8	学 年 部	○平成 2 5 年度校内研究まとめ学年の成 果と課題についての話し合い① ・ 事務所報告書に関連	○【国語 C R T 検査】 ○【算数 C R T 検査】
	25	1/15	全 体 会	○「研究のまとめ」作成について	
	26	1/15	全 体 会		○学力向上研修④ 「算数科授業づくり研修」 ・ 模擬授業
2	27	2/5	全 体 会	○校内研究の反省 ○次年度に向けて	
	28	2/12	学 年	○生活科・総合的な学習の時間単元構想 と実践の反省	
	29	2/26	学 年	○次年度に向けてた生活科・総合的な学 習の時間の単元構想の作成	
3	30	3/5	全 体 会	○「校内研究のまとめ」製本	

9 平成25年度ESD推進全体計画

<p>学習指導要領改訂のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂 「生きる力」という理念の共有 基礎的・基本的な知識・技能の習得 思考力・判断力・表現力等の育成 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保 学習意欲の向上や学習習慣の確立 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実 	<p>教育目標</p> <p>豊かな心を持ち たくましく生きる児童の育成</p> <p>【めざす児童像】</p> <p>(知) 進んで学ぶ子 (かしこく)</p> <p>(徳) 思いやりのある子 (やさしく)</p> <p>(体) 心と体を鍛える子 (たくましく)</p>	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲や基礎的・基本的内容の定着ができていない児童が各学年に2～4割居る。自ら考え、問題を解決する力が十分身に付いていない。また、自分の気持ちや考えを言葉で表現するのが苦手な傾向がある。 明るく活発で素直な児童が多く、元気にあいさつをする児童が多い。整理整頓など基本的な生活習慣が十分身に付いていなかったり、思いやりに欠ける言動が見られたりする。 目標達成に向け、根気よく取り組む態度に欠ける様子が見られる。 進んで運動に親しむ児童が多い。
--	--	--

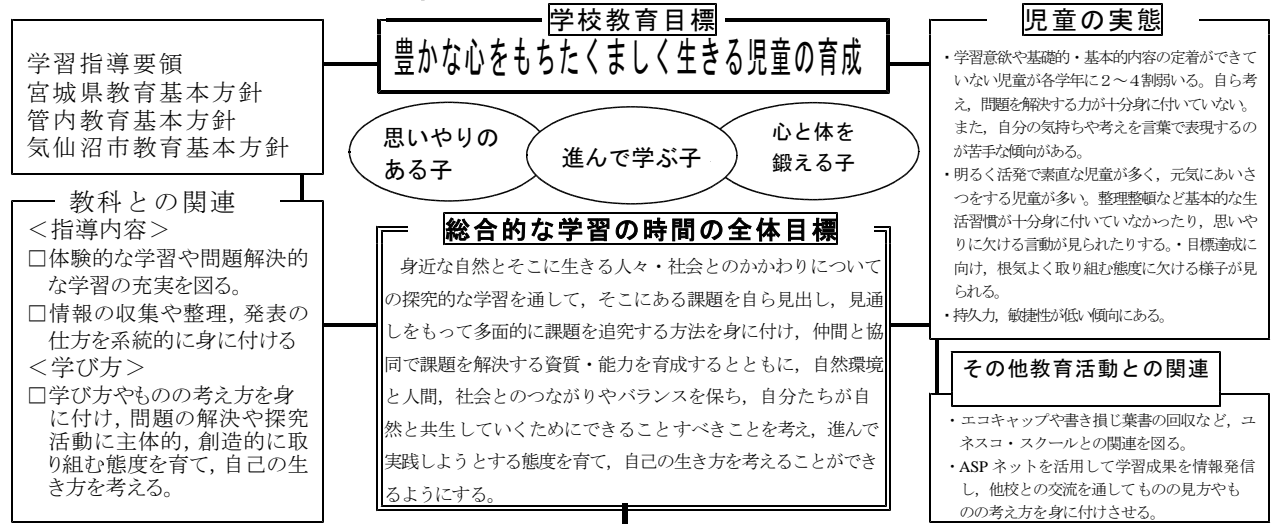
<p>ESDの理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 世界中の人々の尊厳と人としての権利を大切にし、社会的、経済的な公正をすべての人に保障しなければならないと認識すること。 私たちには将来の世代の人々の権利を守る責任があると認識すること。 地球の生態系を守り、多様性に富んだ生命共同体を思いやること。 文化的な多様性を大切にし、地域社会、そして地球全体に「寛大・非暴力・平和」の文化をつくりだすこと。 	<p>本校におけるESDのテーマ</p> <p>「持続可能な社会の構築に向けて、進んで人や自然と関わりながら学び合い、考えを深め表現する力をもった児童を育む環境教育の創造」～「書く活動」に重点を置いた探究的な学びをつくる生活科・総合的な学習の指導を通して～</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を育む。 <p>【重視する能力・態度】</p> <p>ア) 批判的に考える力 イ) 見通しをもって計画を立てる力 ウ) 多面的・総合的に考える力 エ) 気持ちや考えを表現する力 オ) 他者と協力する態度 カ) つながりやを尊重し感謝する態度 キ) 進んで行動する態度</p>	<p>ユネスコ・スクール活動目的</p> <ol style="list-style-type: none"> ユネスコ・スクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと <p>ユネスコ・スクール基本分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 地球規模の問題に対する国連システムの理解 人権、民主主義の理解と促進 異文化理解 環境教育
---	--	--

教科・領域及び教育活動の重点						
各教科	道徳	生活科・総合	学級活動	児童会活動	学校行事	日常の活動
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ意欲を引き出す指導の工夫 基礎・基本的内容の確実な定着を図る指導の工夫 考える力を高めるための問題解決学習等の充実 コミュニケーション能力(対話力)を高める指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向かって最後までやり遂げようとする態度を育てる 相手の立場になって考え、互いに信頼し、助け合おうとする心情を育てる 生命を大切にしようとする心を育む 約束や決まりを守りよりよく生きようとする心情を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 身に付ける力の重点化を図る 各教科との横断を図った単元構成を工夫する 地域に根ざした体験的・探究的な学習を工夫する 積極的に地域人材の活用、大学や専門機関との連携を図る 地域人々や周辺への積極的な発信を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、総合的な学習の時間などとの関連を図り児童の自主的・自立的な活動を重視し、指導方法や教材を工夫する 自分に自信をもたせ、自立する力を高めるために、体験活動や生活改善を話し合う活動を重視する。また、異年齢集団による活動を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童による自主的・自立的な活動が助長されるよう指導を工夫する 各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間などとの関連を図る 家庭・地域の人々との積極的な連携を図る ユネスコ・スクールとしての継続的な活動を位置付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 児童による自主的・自立的な活動が助長されるよう指導を工夫する 各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間などとの関連を図る 家庭・地域の人々との積極的な連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上対策として、家庭と連携し家庭学習の充実を図る 地域の協会、スポーツ団体等との連携を図る

(校内研究)						
<p>【各教科重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の重点目標は、教育計画「教科指導全体計画」を参照 	<p>【重点内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 節度ある生活態度 不とう不屈・努力、希望・勇気 思いやり・親切 生命の尊重 自然愛・動植物愛護 規則の尊重 郷土愛 勤労 	<p>【取り組み】</p> <p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> <p>4年</p> <p>5年</p> <p>6年</p> <p style="text-align: center;">詳細は別紙全体計画</p>	<p>【活動】</p> <p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> <p>4年</p> <p>5年</p> <p>6年</p> <p style="text-align: center;">詳細は別紙全体計画</p>	<p>【ユネスコ・スクールとしての活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> エコキャップ 書き損じはがき回収 寺子屋運動 <p>【集会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校縄跳び大会 	<p>【校内行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会 校内水泳大会 野外宿泊学習 修学旅行 面瀬フェスティバル 持久走大会 校内かきぞめ展 【対外行事】 市内体育大会 市内音楽祭 	<p>【PTAとの連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境緑化活動 地区懇談会 親子環境整備 運動会 家庭学習 【交通安全協会との連携】 子ども自転車大会 【スポーツ】 NEO

本校のESDを支える地域人材・大学・専門機関等		
<p>【地方自治体】 県環境政策課、市環境課、公民館、等</p> <p>【専門機関】 宮城教育大学 等</p> <p>【地域人材】 トマト農家、カキ養殖小松さん、環境教育リーダー菊地さん 等</p>	<p>【NPO法人】 大島大好き 等</p>	<p>【団体】 北鯉組、東北電力、河北新報社 等</p>

10 総合的な学習の時間全体計画



評価の観点と育みたい資質・能力・態度と評価基準			
育てたい資質・能力・態度	評価の観点 E S Dの能力・態度	評価基準	視点
(1) 身近な自然や地域とそこに生きる人々に進んでかかわりながら、よさや問題に目を向け、課題の解決や目標の実現に向けて見通しをもち、友達と協力し、計画的に粘り強く課題を追究したり、生活の在り方を見直し、自分にできることを考え実践しようとする。	(1) 関心・意欲・態度 ⑤他者と協力する態度 ⑦進んで参加する態度	○身近な自然や地域とそこに生きる人々に進んでかかわりながら、主体的によさや問題に目を向け、自分が決めた課題の解決に向けて、友達と協力し合せて、情報収集・整理・分析したり、まとめたりなど、最後まで粘り強く課題を追究したり、生活の在り方を見直し、自分にできることを考え実践しようとする。 ○地域の自然とふれあう活動や身の回りの環境問題をふり返る活動などを通して、進んで問題と向き合い、友達との検討・吟味を重ね、自分が追究したい意味ある課題を考え設定することができる。	②
(2) 地域の自然環境や身の回りの環境問題にかかわる体験活動や事象から、進んで問題と向き合い、意味ある課題を設定し、見出した課題の解決に向け、各教科で身に付けた知識や技能の活用を図りながら、目的をもって情報を収集したり、調べた結果を関連付けて整理・分析したり主体的に課題を追究し、その結果や自分の考えを、図や表などの資料を適切に用いて、説明したり、レポートや新聞等にまとめたり、伝えたいことを言語を用いて表現する。	(2) 思考・判断・表現 ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力	○見出した課題の解決に向け、各教科で身に付けた知識や技能の活用を図りながら、目的をもって情報を収集したり、取り出した情報を関連付けて整理・分析し、自分の考えを構築することができる。 ○調べた結果や構築した自分の考えを、図や表などの資料を適切に用いて、ポスターセッションやワークショップ等で説明したり、レポートや新聞等にまとめたり、自分が伝えたいことを言語を用いて表現することができる。	①
(3) 各教科で身に付けた知識や技能を活用し、互いの考えを伝え合ったり、目的をもって情報を収集したり、適切な方法を用いて情報を整理・分析したり、追究した結果を言語を用いて分かりやすく表現する。	(3) 技能 ④コミュニケーションを行う力	○国語科で身に付けた「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の知識や技能の活用を図りながら、話し合いができる。 ○アンケートを取ったり、インタビューをしたり、インターネットで検索したりなど、目的に応じた情報を収集ができる。 ○集めた情報から必要な情報を取り出し、グラフにしたり、表にしたり分類したりなど、情報を整理することができる。 ○整理した情報を関連付けながら、テーマに沿って気付いたことや明らかになったこと、新たな課題などに分析することができる。 ○分析結果や他者の考えとの比較を基に、テーマに対する自分の考えを構築し、グラフや図、表、写真等の資料を用いて、ポスターセッションやワークショップ等で説明したり、レポートや新聞にまとめることができる。	①
(5) 学習を通して、身近な自然や地域によさや生活とのつながり、地域の人々とのつながりに気付くことができる。また、学び得たことが、他の学習や自分の将来の夢や希望に結びつくことに気付くことができる。	(4) 気付き ⑥つながりを尊重する態度	○身近な自然や地域・人々とかかわりを通して学ぶ中で、身近な自然や地域によさ、生活とのつながりに気付くことができる。 ○学習を通して、自分の成長を肯定的にとらえ、夢や希望をもって前向きに生きていくことの大切さに気付くことができる。	② ③

3つの視点 ①学習方法に関する事 ②自分自身に関する事 ③他者や社会、自然とかかわりに関する事

研究主題

自ら考え、表現する力を高める指導（3年次）
～「書く力」に重点を置いた生活科・総合的な学習の時間における指導を通して～

学年部の目標と各学年のプロジェクト	
中学年部	高学年部
<p>学年部目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面瀬川などの水辺のいきもの 調査を通して、水辺環境を守るためにできることを考え、発信する。 ・面瀬川の水質と生活排水の調査をしながら生活と面瀬川の環境、さらに海の環境のつながりを探究して、水辺環境を守るためにできることを考え、発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の気仙沼市の水産業の現状から、「水産都市気仙沼」の課題や、海と共に生きる人々の思いや願いを探り、「水産都市気仙沼」の復興に向けた自分たちの思いや考えを発信する。 ・地球温暖化の問題とエネルギーを追究し、地産地消エネルギーや再生エネルギーを利用した気仙沼市のエネルギーの在り方について考え、未来のエネルギー構想を提案し、発信する。
<p>学 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●3年「みらいにのこそう水辺のいきものたち」（70時間） ●4年「未来にのこそう水辺のかんきょう」（70時間） 	<ul style="list-style-type: none"> 5年「水産都市気仙沼、海と共に生きる」（70時間） 6年「母なる地球、今、私たちにできること」（70時間）

<p>評価</p> <p>「評価の観点」(1)関心・意欲・態度 (2)思考・判断・表現 (3)技能 (4)気付き</p> <p>「評価の方法」活動への参加意欲態度 ポートフォリオ 相互評価・自己評価 資料づくり 作品づくり・作文など</p>
--

地域・大学・専門機関との連携

【地方自治体】 県環境政策課・市環境課、市水産課、公民館 等 【専門機関】 宮城教育大学 等 【NPO法人】 大島大好き等
【地域人材】 トマト農家、カキ養殖小松さん、環境教育リーダー菊地さん 等 【団体】 北鱈組組合、東北電力、河北新報社 等

9 面瀬小学校総合的な学習の時間「おもせっ子タイム」評価基準

(1) 総合的な学習の時間の目標(国の示す基準)

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的・協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

(2) 本校の目標

身近な自然や地域とそこに生きる人々とのかかわりについての探究的な学習を通して、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して調べ、新たな気付きを発見したり、調べた結果を関連付けたりしながら、自分の考えを組み立てる力を身に付け、よりよく課題を解決する資質・能力を育成する。また、人々が自然環境とのつながりや社会とのつながりを保ち、よりよく生きていくために、今、自分たちにできることやすべきことに気付き、進んで実践しようとする態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

(3) 育てたい資質・能力・態度及び評価規準

3つの視点 ①学習方法に関すること ②自分自身に関すること ③他者や社会、自然とのかかわりに関すること

育てたい資質・能力・態度	評価の観点 E S Dの能力・態度	評価基準	視点
(1) 身近な自然や地域とそこに生きる人々に進んでかかわりながら、よさや問題に目を向け、課題の解決や目標の実現に向けて見通しをもち、友達と協力し、計画的に粘り強く課題を追究したり、生活の在り方を見直し、自分にできることを考え実践しようとする。	(1)関心・意欲・態度 ⑤他者と協力する態度 ⑦進んで参加する態度	○ 身近な自然や地域とそこに生きる人々に進んでかかわりながら、主体的によさや問題に目を向け、自分が決めた課題の解決に向けて、友達と協力し合して、情報収集・整理・分析したり、まとめたりなど、最後まで粘り強く課題を追究したり、生活の在り方を見直し、自分にできることを考え実践しようとする。	②
(2) 地域の環境や防災にかかわる体験活動や事象から、進んで問題と向き合い、意味ある課題を設定し、見出した課題の解決に向け、各教科で身に付けた知識や技能の活用を図りながら、目的をもって情報を収集したり、調べた結果を関連付けて整理・分析したり主体的に課題を追究し、その結果や自分の考えを、図や表などの資料を適切に用いて、説明したり、レポートや新	(2)思考・判断・表現 ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力	○ 地域の環境や防災にかかわる活動などを通して、進んで問題と向き合い、友達との検討・吟味を重ね、自分が追究したい意味ある課題を考え設定することができる。 ○見出した課題の解決に向け、各教科で身に付けた知識や技能の活用を図りながら、目的をもって情報を収集したり、取り出した情報を関連付けて整理・分析し、自分の考えを構築することができる。 ○ 調べた結果や構築した自分の考えを、図や表などの資料を適切に用いて、ポスターセッションやワークシ	①

<p>聞等にまとめたりなど、伝えたいことを言語を用いて表現する。</p>		<p>ヨップ等で説明したり、レポートや新聞等にまとめたり、自分が伝えたいことを言語を用いて表現することができる。</p>	
<p>(3) 各教科で身に付けた知識や技能を活用し、互いの考えを伝え合ったり、目的をもって情報を収集したり、適切な方法を用いて情報を整理・分析したり、追究した結果を言語を用いて分かりやすく表現する。</p>	<p>(3) 技能 ④コミュニケーションを行う力</p>	<p>○ 国語科で身に付けた「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の知識や技能の活用を図りながら、話し合いができる。 ○ アンケートを取ったり、インタビューをしたり、インターネットで検索したりなど、目的に応じた情報を収集ができる。 ○ 集めた情報から必要な情報を取り出し、グラフにしたり、表にしたり分類したりなど、情報を整理することができる。 ○ 整理した情報を関連付けながら、テーマに沿って気付いたことや明らかになったこと、新たな課題などに分析することができる。 ○ 分析結果や他者の考えとの比較を基に、テーマに対する自分の考えを構築し、グラフや図、表、写真等の資料を用いて、ポスターセッションやワークショップ等で説明したり、レポートや新聞にまとめることができる。</p>	<p>①</p>
<p>(5) 学習を通して、身近な自然や地域のよさや生活とのつながり、地域の人々とのつながりに気付くことができる。また、学び得たことが、他の学習や自分の将来の夢や希望に結びつくことに気付くことができる。</p>	<p>(4) 気付き ⑥つながりを尊重する態度</p>	<p>○ 身近な自然や地域・人々とかかわりを通して学ぶ中で、身近な自然や地域のよさ、生活とのつながりに気付くことができる。 ○ 学習を通して、自分の成長を肯定的にとらえ、夢や希望をもって前向きに生きていくことの大切さに気付くことができる。</p>	<p>② ③</p>